

# 第1学年 国語科学習指導案

## 研究主題

どの子ども自信をもって書くことができる指導法の工夫  
～モデル文や文集「練馬の子ら」を活用して～

## めざす児童像

- 事柄の順序に沿って書くことのできる子
- 自分の思いや考えを進んで書こうとする子
- 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うことができる子

1. 単元名 よく 見て かこう

2. 教材名 しらせたいな、見せたいな

### 3. 単元の目標

◎知らせたい題材について、必要な事柄をよく観察して書こうとする。

【国語への関心・意欲態度】

◎語と語の続き方に注意し、句読点を使ってつながりのある文を書くことができる。

【書くこと】

○書いた文を読み返して、句読点や文字を正しく書くことができる。【言語事項】

### 4. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	・好きな動物や植物を見付けて、家の人や友達に書いて知らせようとしている。
書くこと	・よく見て気付いたことを単語や簡単な文で書き表している。 ・事柄の順番を考え、一文に一つの事柄を入れて書いている。 ・句読点や字の間違いなど、教科書に示してある観点で読み返している。
言語事項	・句読点や文字を正しく表記している。

## 5. 単元について

### (1) 児童の実態 意識調査（1学年89名）

設問	回答項目	平成25年7月
国語の勉強は好きですか。	好き	52人
	まあまあ好き	21人
	あまり好きではない	16人
本を読むことは好きですか。	好き	76人
	まあまあ好き	11人
	あまり好きではない	2人
書くことは好きですか。	好き	53人
	まあまあ好き	26人
	あまり好きではない	10人

初めて学ぶひらがなに意欲的に取り組んでいたが、ひらがなの習得の個人差はとても大きかった。全体としては6月までにひらがな50音を学習し、簡単な1文を書くことから始めた。7月には「自分の好きなもの」とそのわけを2文で書いたが、モデル文をもとに全員がしっかりと書くことができた。この時期の意識調査で「書くことは好きですか」の問いに90%近くの児童が「好き」「まあまあ好き」と答えている。全員が2文を書けたことで、文を書くことについて前向きなスタートがきれたといえる。同時に「あまり好きではない」と答えた10人への個別の働きかけが必要であることがわかった。

9月からは週2回、3文以上の日記を書く取り組みを行ってきた。書くことへの抵抗は少なく、その日にあったことなどを楽しみながら書いているが、「は」および「を」などの助詞や拗音、促音などの表記はまだ正しく書けない児童も少なくない。

生活科で観察カードなどを書いてきたが、国語では本単元が初めて「観察」して書く活動となる。

### (2) 単元設定の理由

学校生活にも慣れ、視野の広がってきた1年生にとって、学校でのあらゆるできごとが「おうちの人に知らせたいこと」である。その中でも学校で飼育している生き物の様子はどの児童も意欲的に書こうと思える題材といえる。しっかり観察してカードに書き込んだことをどのように文章にすればよいかをモデル文で具体的に学ぶことで、書くことが苦手な児童もモデル文に近い量の文を書くことができ、それが書くことへの更なる意欲にもつながると考えた。

### (3) 学習材について

学校で飼育しているニワトリや教室で飼育しているカメの様子は、1年生が家の人に「知らせたい」「見せたい」と思える最適の題材といえる。生活科と関連させながら、それらをよく観察して、文章に書いてみることで、「書いて知らせる」ことができる、自分が書いたものを読んで相手が理解し、「見てみたい」と思ってくれるという喜びをぜひ体験させ、自信へとつなげたい。

## 6. 主題に迫るための指導の工夫

### (1) 児童の興味・関心をもたせる単元計画の工夫

9月より生活科の「げんきにそだて」の単元の学習で家庭での様々な小動物の飼育経験を交流し合った。教室ではカメの世話に取り組んだ。水を取り替えたり、えさを与えたりと教室で身近にカメと関わりながら、観察をしていけるようにした。

共通教材の「ニワトリ」も学校で飼っているニワトリを近くで見たり、直接えさをやったりして、触れ合いながら観察ができるようにした。

生活科で十分に触れ合った後で、体の特徴やえさを食べる様子など見たことや気付いたことを、カードに単語で書くところから始めた。次にその書き込みを文にする。その文を並べ替えて観察文を完成させる。というように、スモールステップを踏んだ学習にした。

### (2) 共通教材・モデル文の工夫

共通教材の「ニワトリ」については、体・目・くちばし・足・えさを食べる様子と書く項目をあらかじめ設定することで、観察する観点を明確にした。

また、発展としての個別教材は、1年生であるので、各自が全く違う生き物を選ぶのではなく、生活科で皆で観察したカメを共通教材で学んだことを生かしながら、各自が自由に作文にする、という形をとった。

モデル文は教科書のモルモットの文を使用した、「もこの毛は・・・」という表現を「もこの体の色は・・・」というように、共通教材のニワトリや個別教材のカメにも応用できるように一部の表現を工夫した。

7. 指導計画(全8時間 生活科3時間)

次	時	学習活動	☆手だて ○指導上の留意点 ◆評価【方法】	生活科との 関連
1次	第1時	○教科書を読み、学習の見通しをもつ。 ○新出漢字を学習する。	☆相手意識を明確にする。 ◆好きな動物について、家の人や友達に書いて知らせようとしている。【観察・発言】	
生活科	第1時			9月より教室でカメの観察をしたり、世話をしたりする。
2次	第2時 (3組本時)	<b>モデル文での学習</b>		
		○モデル文をもとに文章の書き方を考える。	○モデル文をもとに、色や形、大きさ、様子など知らせたい視点に気付かせる。 ◆生き物の知らせたい視点に気付いている。【観察・発言】	
生活科	第2時			学校のニワトリ(コッコ)の観察をする。
3次	第3時	<b>共通教材での学習</b>		
		○モデル文をもとに、カードに書き込む内容を確認、見付けたことを書き込む。	○カードには短い言葉で書くことを押さえる。 ◆カードに名前や色、形、様子などの特徴を書き留めている。【カード】	
	第4時 (2組本時)	○ニワトリの観察文を書く。 ・モデル文と照らし合わせながら、前時のカードを基に書く。	○カードに書いたことを、主語を意識させて文にさせる。 ☆一文ずつ確認しながら書いていく。 ○文の終わりには丸を付けることを確かめる。 ◆見付けたことを基に、一つの文に一つの事柄を書いている。【作文】 ◆句読点を正しく表記している。【作文】	

	第5時	○書いた文章を読み返して直す。 ○ニワトリの観察文を発表する。	○声に出して読ませる。 ◆モデル文を見て同じように書いている。【作文】	
生活科	第3時			カメの観察をしながら、絵を描く。気付いたことをカードに書く。
4次	第6時 (1組本時)	<b>個別教材での学習</b>		
	第7時	○カメの観察文を書くためのカードを選ぶ。 ・カードに書く内容を確認する。 ○書く順番を考えて、カードを並び替える。	○色や形、大きさ、様子など、見付ける視点に気付かせる。 ◆見付けたことから自分の書きたいことを選び、書く順番を考えている。 【カード】 ○カードを順番に読み、おかしいところがないか考えさせる。	
	第8時	○カメの観察文を書く。 ・考えた順番に沿って、文章を書く。 ・文章を読み返して直す。	○カードを基に、原稿用紙の使い方に気を付けて書かせる。 ◆書いた文章を、句読点や文字に気を付けて読み返し、間違いを直している。【作文】	
	第8時	○友達の書いた文章を読み、感想を発表する。	○お互いのよいところを伝え合う場を大切にすることを伝える。	